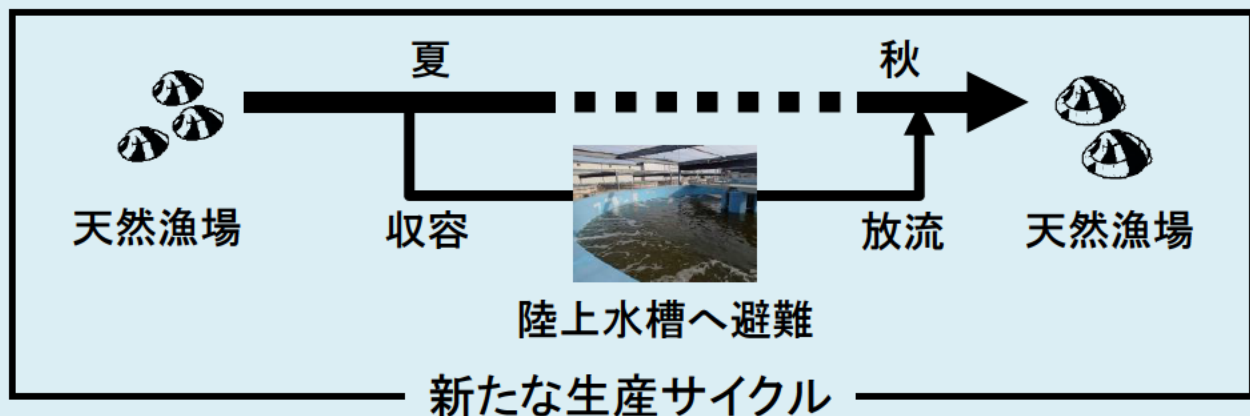


アサリの陸上飼育のための技術開発

三重県では、毎年、夏季から秋季にかけて、貧酸素水塊や台風などによるアサリ稚貝の大量へい死が問題となっています。そこで本研究では、夏季から秋季までの長期間、大量の稚貝を陸上水槽に避難させて飼育する技術を開発しました。



(本研究は平成27～29年度三重県水産振興事業団委託事業により実施しました)

技術開発のポイント

陸上飼育するうえでの最大の課題は、餌料(植物プランクトン)の安定供給です。本研究では、三重県北部中間育成施設(鈴鹿市白子)において、エビ類の中間育成時の副産物であるブラウンウォーター(植物プランクトンにより茶色に着色した飼育水)を有効利用することにより、餌料の安定供給を図りました。



ブラウンウォーターの顕微鏡写真

飼育成績

7月上旬に收容した殻長9mmの稚貝は、5か月後の11月下旬には、殻長16～24mmの初期成貝まで成長しました。また、陸上水槽では、貧酸素水塊や台風などの影響を受けなため、生残率は80～100%と良好でした(参考:近年の天然漁場での生残率は0～41%)。



陸上飼育で生産したアサリ

今後の課題

本研究により、長期間アサリを陸上飼育する基礎技術が確立しました。今後は、天然漁場で減少した産卵量・漁獲量を増加させる新たな生産サイクルとして、陸上水槽等が有効活用されるよう、安定生産と生産規模拡大の技術開発を進めていきます。



三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

Mie Prefecture Fisheries Research Institute Suzuka Branch

〒510-0243 鈴鹿市白子1丁目6277-4

TEL (059)386-0163

FAX(059)386-5812